

# 松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2017年3月18日 発行

松蔭中学校・高等学校  
校長 浅井直光

時をよく用いなさい。(エフェソの信徒への手紙 5-16)

## 新しい学習のスタイルへ 2018年度から授業6日制を実施します

### 一人ひとりの確実な成長を願って

1月の「校長室だより」でもお知らせしましたが、5年後に創立130年を迎えるにあたり、学院の将来構想計画「ビジョン130」を策定しているところです。改革を実施するにあたっては、教育活動の枠組みを定めておくことが必要です。そこで1年後の2018年4月より、現在の授業5日制を取りやめて土曜日授業を実施する、学校6日制の導入を決めました。この改革のねらいは、生徒の「自ら学ぶ姿勢」「自学自習の習慣」をキーワードとし、まずは「学校で学習を完結させる」ことです。そして学校で学ぶ姿勢を身に付けることで、その延長にある家庭学習につなげたいと考えています。

現在、火曜日と木曜日が7時間授業となっていますが、2018年度からは平日6時間、土曜日は中学3時間、高校は原則2時間の授業体制となります。単に火木の⑦校時を土曜日に移動させるということではありません。現行制度での問題点として、週2日は午後4時15分までの授業があり、生徒も教師もスケジュールが過密になり余裕が無いという点があげられます。担任と生徒との面談時間もなかなか設定出来ないのが実状です。冬の下校時刻は午後5時ですので課外活動の時間もありません。そこで全ての平日の放課後に「枠」をつくることで、生徒の活動や学習の広がりを持たせようということです。平日放課後には、高校の進学補習、中学の定期考査未到達者の補習、現在土曜日に開講している英検対策講座などを予定しています。高2以上の校内予備校は現行の土曜日に加えて平日の開講も考えています。担任の先生との面談も組みやすくなりますし、クラブ活動に参加することもOKです。図書館・自習室の利用も推進して、学校で宿題もし、自学自習できるようにします。

土曜日は、中学生は原則として英数国主要3科の学習日とし、特に国語については、特別カリキュラムを組んで読解力、論理力など総合的な国語の力の向上を目指します。ただし時間割編成の都合によりこの国語は平日授業になるかも知れません。高校は原則として②校時までの授業で、③校時は進学対策や補習などに充て希望選択できるようにします。クラブ活動も可能とします。クラブ活動については生徒の負担の軽減のため、活動日を週何日までと制限したりすることも必要ではないかと思っています。土日に習い事をしている生徒はスケジュール調整が必要になると思いますが、

土曜日午後はフリーになります。学校に週6日間登校することにより「学ぶ姿勢」「自学自習の習慣」をつけ、さらに家庭学習につなげようと考えているわけです。未定の部分も多くありますが、2017年度の1年間を準備期間とし、しっかりと学校6日制の中身を固めていく予定です。

保護者の皆様への説明については新学期的PTA学年集会のほか、夏休みまでには6日制の内容をお知らせできるようにします。生徒に対しては終業式でこの紙面の内容を伝達しました。

2019年には高2基礎学力テスト、2020年には大学入試新テスト、その後の学習指導要領改定など、学院が創立130周年を迎える2022年までに大きな教育改革が予定されています。先月、公表された次期学習指導要領改定案には、主体的・対話的で深い学びをすすめることや、夏休みや土曜日の活用で授業日数・授業時間数を増やすこと、短時間学習の導入などが盛り込まれています。これらの改革や改定は公立・私立を問わず全ての国内の学校に求められる内容ですが、この内容に留まることなく、公立にはない特色ある松蔭の教育を作りあげるべきことは当然のことです。松蔭の生徒は学校が好きです。その利点を生かし、特に中学生が学校で勉強することも好きになってもらい、学校で意欲的に学習する姿勢を身に付けさせたいと考えています。いずれにしても目標は「生徒の確実な成長」を実現する学校づくりをするということです。世の中は、子どもの能力開発だけが学校のやるべきことだ、ということで私学はその競争の舞台となっていることは否めません。しかしキリスト教主義学校での日々の生活のなかで、自分の弱さを認め、人の失敗をゆるし、家族や周りの人と支え合って生きていくことが人生なのだと思ふことも「確実な成長」です。冒頭の聖書の言葉は、単に時間を大切にすることだけでなく、過ぎ去っていく時間の中に人生のターニングポイントとなるような瞬間を見つけ出し、積極的に上手に生かしていくことを説いています。6日制の学校生活のなかで生徒達が「時をよく用いる」ことができることを願っています。

### 「英語の松蔭」プロジェクト第二弾

#### インターナショナルスクール「土曜日学校」アシスタント募集

英検準1級講座が中3～高2生徒対象に始まっています。続く「英語の松蔭プロジェクト」第二弾は、日本語をまったく使用しない環境にあるインターナショナルスクール、聖ミカエル国際学校 (Saint Michael's International School 略称 SMIS) の「土曜日学校」高校生アシスタントのプログラムです。SMISは松蔭と同じ聖公会のインターナショナルスクールで神戸市中央区にあり、英国の教育課程をベースにIPC(International Primary Curriculum)による初等教育を行っています。学校教育法に基づく学校で兵庫県から準学校法人としての認可も受けており、平日は25ヶ国の3～11才の園児・児童約160名が学んでいます。毎週土曜日に開講する「土曜日学校」には約100名の主に日本人児童が登校し、英語による指導が行われています。この授業に入り、国際学校の外国人教員のアシスタントとして松蔭生が子どもと触れあうというプログラムです。休憩時間も含めて全て英語です。英検2級以上と、子ども好きなことが応募条件です。2017年度1学期より学期に3回程度を予定しています。インターナショナルスクールに一步足を踏み入れると、外国の学校に留学しているのと同じ環境を体験できます。ぜひ、チャレンジしてほしいと思います。(裏面へ続く)

## 英検・TOEIC 全校受験の結果について

1月に実施した英検・TOEIC 全校受験の結果が出ました。中1生徒2名が準2級に合格するなど、中学生でも準2級、2級合格者が増えて来ました。2級や準2級の2次試験会場ではやはり中1、中2生というのは目立つようで、他の受験者の方が驚かれているとのことでした。TOEIC 受験者は中高合わせて44名。最高点は880点でした。職員室前の掲示板に準2級以上の合格者の名前を掲示することにしています。次の級へのステップアップの励みとしていただきたいと思います。

## 2016年度の修了と中学3年生の卒業

3月18日、中学校卒業式を挙行了しました。他学年が終業式で1年を修了する一方で、中学3年生は卒業生として3カ年の締めくくりを行います。中高一貫校としてほとんどの生徒が併設高校へ内部進学しますが、義務教育期間が終了するという意味では大きな転換点です。私が卒業生にお話した内容を以下に掲載します。

今、皆さんはとても大きな節目の時を迎えています。それは、小中の義務教育9年間を終えることになるからです。公民の授業で学習したように、義務教育の義務は皆さんの義務ではありません。皆さんではなく、保護者の方にとって子供に学校に通わせて教育を受けさせる義務があった、ということです。義務教育という制度のなかで皆さんには、学習する権利があったということになります。今日、中学卒業を迎えるということは、その学習する権利の最後の日を迎えていることになります。学習する権利が無くなる4月からは、皆さんは何のために高等学校へ行くのでしょうか？ 皆が行くから一緒に、当たり前のことだから何となく、などと感じているならば、それはあまりに子どもっぽく未熟な考え方だと思います。義務教育が終了し高校に進学することは、保護者の方が、皆さんに立派な大人に成長して欲しい、そのために高校教育を受けさせたいと考えられたからです。だから学業だけでなく友人と仲良くし、クラブ活動を頑張り、行事や様々なプログラムで幅広い学びや気づきを得て欲しいと思います。同時に皆さんには、子どもの成長を願う親の思いを受け止めて感謝の気持ち持つ義務のようなものがあると思います。このことを自覚して高校進学の日を迎えてください。

高校生活が始まると共に、皆さんは十代の後半に差し掛かります。今壇上の私に目を向けている皆さんの表情には、中学入学当初の幼さやあどけなさはもうありません。中学3年間が子どもから大人への切り替えの途中期間だとすると、これから二十歳までの5年間は、大人としての「自分づくり」をする期間になると思います。大人としての「自分づくり」とは、自分自身の進路を考えてその実現に向け努力をすることです。全てを親にまかせきりで保護されるだけの存在から、自立し自分の足で人生を歩む準備をすることです。松蔭高校では1年生からブルーアースプロジェクト（BEP）という、女子高生が社会と関わり、繋がりを考える取り組みを通して気づきや学びを得るプログラムがありますが、これからは社会との繋がりを考え始める時です。高校3年になると満18才になった人から有権者となり政治に参加する権利を得ます。一人の国民として世の中のこと、政治のこと、国際社会のことを考える必要があります。大学進学後は、未成年ながら一人前の社会人と

扱われることも増え、20才で法律上でも成人となります。16才で女性の婚姻が認められることもご存知だと思います。まさに社会との繋がりが深まる十代後半の5年間です。

「まだ子どもだから」という言い訳はもはや通用しなくなります。自分から挨拶が出来ない人、言葉遣いが良くない人は人間として未熟だと見られます。自分の感じたことを、自分の思いを、自分の考えを言葉にして友人に、家族に、先生に伝えることが求められます。自分の将来の夢や希望が心の中に定まって来た時には、そのことを保護者の方に伝え相談することが必要です。自分はこの方向へ進みたい、このような分野で学んでいきたい、だから応援して欲しい、としっかりと話をしなければなりません。自分のことだから自分だけで、と独りよがりには決めることは、高校生としては未熟なやり方です。どうぞこの5年間で、「自分づくり」をする決意を固めていただきたいと思います。目の前のことに一生懸命取り組む皆さんを、私たち教職員は精一杯、応援するつもりです。

*(2017年3月18日松蔭中学校卒業式 校長式辞より)*

## 熊本地震 支援ボランティア

3月18日～22日予定で3名の生徒が九州熊本大分震災支援ボランティアに参加します。昨年4月14日から始まった一連の熊本地震から間もなく1年が経とうとしています。復興が進んでいるようですが、震源の熊本県益城町や南阿蘇村で現地の状況を視察するとともに、片付けや仮設住宅訪問を行って被災体験を聞く予定です。被災者に寄り添う心、支援する心を胸に、被災者と共に試練を乗り越える姿勢を持ちたいと思います。試練を乗り越えようとするこの姿勢こそ、神様が私たち松蔭の生徒、教職員にお示しくださっていることだと思います。